

## 「春の雪」

長崎にしては珍しく雪が積もる日が多かった今年の冬、こどもたちは喜び勇んで雪だるま作りに励んでいましたが、積雪に慣れない“じげもん”にとっては、普段と異なる状況の中での通勤、仕事にご苦労があったのではないかと思います。図書館業務では、公民館図書室をまわる搬送車が長崎バイパスの通行止めの影響を受けて、予定到着時間に間に合わず、急遽タクシーを使用するなど、対応に追われました。全国的に見ても、今年は降雪量が多く、特に新潟県や北陸・山陰地方の日本海側では、道路が通行止めになってたくさんの車が立往生したり、雪下ろしの最中に屋根から落ちる事故のニュースを頻繁に耳にしました。

しかし、冬来たりなば春遠からじです。厳しい冬の後には必ず春がやってきます。日差しにも幾分やわらかさを感じるようになりました。三寒四温という言葉もあります。少しずつですが、春が近づいているようです。

図書館も4度目の春を迎えます。3月は別れの季節ですが、何か新しいことを始めるチャンスでもあります。一步踏み出す勇気を持って新しいことにチャレンジしてみませんか。皆さんに、そんな本との出会いがありますように。



『きせつの  
手づくり  
図鑑 春』  
峯村 良子/作  
偕成社  
750ミ

おひなさま、こいのぼり、  
エプロン、ティディベア…。  
春にまつわるいろいろな  
手づくり作品を紹介。



『日本 桜の  
名所 100選』  
主婦の友社  
T291 二

北は北海道から南は九州・沖  
縄まで、「財団法人日本さくら  
の会」が選定した桜の名所  
100選を写真とともに紹介。



『旅立ち。』  
あさの あつこ  
ほか/著  
メディア  
ファクトリー  
B913.6 夕

大切な何かにさよならを  
告げて旅立つ日は誰にで  
も訪れる。だけどそれは新  
たな旅立ちの一步なのだ。

## 図書館カレンダー

毎週火曜日は休館日です。

開館時間 10:00～20:00



### 3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

### 4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30



# 文学賞アラカルト



1 月末、2011 年本屋大賞の候補として、以下の 10 作品が発表されました。

本屋大賞は全国の書店員が審査員となり、実際に読んで「面白かった」「薦めたい」「売りたい」と思った本を選ぶ文学賞です。より読者目線に近い文学賞として評されることが多く、これまで大賞を受賞した全ての作品、またノミネート作品の多くが映画・ドラマ化されていることで有名です。



『悪の教典』  
貴志 祐介/著  
文藝春秋



『錨を上げよ』  
百田 尚樹/著  
講談社



『神様のカルテ 2』  
夏川 草介/著  
小学館



『キケン』  
有川 浩/著  
新潮社



『叫びと祈り』  
梓崎 優/著  
東京創元社



『シューマンの指』  
奥泉 光/著  
講談社



『ストーリー・セラー』  
有川 浩/著  
新潮社



『謎解きは  
ディナーのあとで』  
東川 篤哉/著  
小学館



『ふがいない僕は  
空を見た』  
窪 美澄/著  
新潮社



『ペンギン・  
ハイウェイ』  
森見 登美彦/著  
角川書店

文学賞といえば、みなさんご存知の芥川龍之介賞（芥川賞）、直木三十五賞（直木賞）があります。それぞれ、芥川賞は「娯楽性よりも文章の美しさや形式を重視する純文学」、逆に直木賞は「芸術性よりも娯楽性・商業性に重点を置いた大衆文学」が選ばれるという性格を持っており、今年 1 月の発表では 7 年ぶりに、両賞共に 2 作品がダブル受賞するということになりました。

また、昨年の秋に齋藤智裕（水島ヒロ）が受賞した、高額な賞金で有名なポプラ社小説大賞もみなさんの記憶に新しいのではないのでしょうか。

## <芥川賞 2 作>

## <直木賞 2 作>

## <ポプラ社小説大賞>



『きことわ』  
朝吹 真理子/著  
新潮社



『苦役列車』  
西村 賢太/著  
新潮社



『月と蟹』  
道尾 秀介/著  
文藝春秋



『漂砂のうたう』  
木内 昇/著  
集英社



『KAGEROU』  
齋藤 智裕/著  
ポプラ社

ほかにも、ミステリーや SF、あるいはノンフィクションといったジャンルに特化した賞や、12 歳以下の小学生を対象にした賞など、日本にある文学賞の数は 200 を超えます。文学賞を批評した本もあります（右写真）。本を選ぶ材料としてぜひ加えてみてください。

なお、上に挙げたような受賞作品には予約が集中することが多く、数ヶ月お待たせする場合があります。あらかじめご了承ください。



『文学賞メッタ斬り!』  
大森 望・豊崎由美/著  
バルコ

1つのテーマをもとに2人の図書館員がオススメの本を紹介します！！

### 「絆」

3月は卒業や転勤など、別れの多い季節です。「また会おう」と約束しながら、私たちはそれぞれの道を歩き始めます。

『エバーグリーン』は中学校の卒業式で、10年後の再会を約束した少年と少女の物語です。将来に輝かしい希望を持っていた2人を、10年という歳月は少しずつ変えていきます。青春のきらめきや、切なさを思い出させてくれる1冊です。

約束は、相手を信じ、自分を信じてもらわなければならないものです。信じることの大切さ。それを人と動物の関係を通して教えてくれた本があります。映画化もされた『犬と私の10の約束』という小説です。

主人公のあかりは、12歳の時、子犬を飼い始めます。あかりは、母親から「犬を飼う時には、犬と10の約束をして」と言われ、約束の1つ1つに真剣に頷き、守ると約束しました。しかし大人になるにつれ、自分の生活が忙しくなり、その約束を忘れるようになっていきます。

忙しいからと好きな人に蔑ろにされたら、人間も傷つきます。この本に出てくる10の約束は、人との付き合い方を考える時、大切なことを思い出させてくれるような気がします。(司書T)



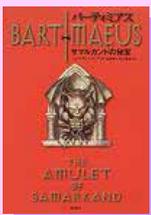
『エバーグリーン』  
豊島 ミホ/著  
双葉社 F913.6 トシ



『犬と私の10の約束』  
川口 晴/著  
文藝春秋 F913.6 カワ



『つるのおんがえし』  
いもと ようこ/文絵  
金の星社 日本絵本イ



『パーティミアス  
サマルカンドの秘宝』  
ジョナサン ストラウド/作  
金原 瑞人・松山 美保/訳  
理論社 Y933.7 ス

### 「代償」

幼い頃から約束は守るものだと教わってきました。それは本から教えられることも多く、特に印象に残っているのが、これから紹介する2冊です。

1冊目は『つるのおんがえし』。これは、いつまでも語り継いでいきたい昔話のひとつです。見るなど言われたのに約束を破って見てしまう、つると若者の悲しい物語です。多くの作者がこの昔話を描きましたが、今回は、いもとようこさんの絵本を紹介します。包み込むような優しいタッチのイラストなので、小さなお子さまへの読みきかせに最適です。

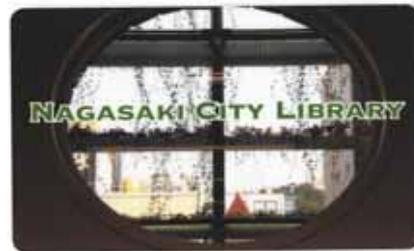
2冊目は『パーティミアス サマルカンドの秘宝』です。

舞台はロンドン。魔術師の卵である少年が呪文を唱え妖霊を召喚し、その妖霊を使って復讐していくファンタジー。さまざまな約束ごとを守らなければならない魔術師の世界で、個性豊かな登場人物が繰り広げるサスペンスストーリーが面白いです。

この作品は3部完結作で、世界30か国以上で出版されています。興味のある方は、第2部の『パーティミアス ゴーレムの眼』と第3部の『パーティミアス プトレマイオスの門』もぜひ読んでみて下さい。(司書H)

# 図書館からのお知らせ

## 登録更新の手続きと貸出カード返却のお願い



貸出カードには有効期限があります

- ・登録された日以降の誕生日から3年2ヶ月後に期限が切れます。
- ・有効期限の2ヶ月前よりカウンターにて更新のご案内をいたします。
- ・更新手続きは誕生日から有効期限までの2ヶ月間に行ってください。
- ・更新手続きには申込書の記入と、住所・生年月日が確認できるもの(免許証や保険証など)の提示をお願い致します。(小学生以下の方は申請書の記入のみ)

有効期限が切れた貸出カードは利用停止となり、貸出・予約ができなくなりますのでご注意ください。

- ・転居などで長崎市立図書館をご利用できなくなる方は、貸出カードを図書館までご返却下さい。最寄りの公民館・ふれあいセンター図書室でもお返しいただけます。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 2月の図書館ラジオ・・・テーマは「共同生活」 毎月第2金曜日午後2時、長崎シティFM(81.3MHz)「ウィーパラライブラリー」で放送中です!

『真綿荘の住人たち』島本 理生/著 文藝春秋 F913.6シマ



レトロな下宿「真綿荘」の住人たちをめぐる群像劇。表紙をめくると、まず目に飛び込んでくるのが真綿荘の間取り図。登場人物の誰がどの部屋に住んでいて、誰とどのようなつながりがあるのか知るうちに、自分も真綿荘に下宿しているような気分になります。良い意味で中途半端な物語ですが、ラストで一気に展開をみせます。ただ、オチは賛否両論なのでぜひ読んでみて下さい。

『木暮荘物語』三浦 しをん/著 祥伝社 F913.6ミウ



築ウン十年のおんぼろアパート「木暮荘」の住人たちが繰り広げる心温まる物語。同じ屋根の下にいらながらも、今まで知らなかった“あの人の一面”を知るたびに、「木暮荘」での毎日は楽しさを増していくばかりです。「空き室があるなら住んでみたい!」と思える、人のつながりが心地よい下宿物語です。

## 長崎市立図書館 予約ランキングベスト10

先月は直木賞、本屋大賞ノミネート作の発表に続き、東野圭吾など人気作家の新刊発売が相次ぎました。予約が集中している本は数ヶ月お待たせすることもあります。ご了承下さい。

順位	タイトル	著者名	出版社	予約数	順位	タイトル	著者名	出版社	予約数
1	KAGEROU	齋藤 智裕	ポプラ社	319	6	白銀ジャック	東野 圭吾	実業之日本社	214
2	夜行観覧車	湊 かなえ	双葉社	284	7	謎解きはディナーのあとで	東川 篤哉	小学館	181
3	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら	岩崎 夏海	ダイヤモンド社	260	8	小暮写真館	宮部 みゆき	講談社	170
4	往復書簡	湊 かなえ	幻冬舎	242	9	母	姜 尚中	集英社	169
5	プラチナデータ	東野 圭吾	幻冬舎	226	10	悪の教典 上	貴志 祐介	文藝春秋	148

※ランキングは2月15日現在のものです。